

NPO 法人

第60号

芦安ファンクラブ通信

南アルプス地域の自然を愛するすべての人達に対して、地域の人々との交流を通じた南アルプスの環境保全及び適正利用に関する事業を行い、もって、南アルプス市芦安地域の活性化に寄与する。

～芦安ファンクラブの理念～

特定非営利活動法人芦安ファンクラブ 事務局 南アルプス市芦安芦倉 1578

TEL 055-288-2345 FAX 055-288-2531 HP <http://ashiyasu.com> Mail afc3193@nus.ne.jp

研修旅行に行ってきました！

2.14～15 飯山～信越トレイル

研修旅行～冬の飯山を訪ねる～ 杉山弘卓

例年温暖な地方を選んでいた研修旅行でしたが、今年には信越トレイルで有名な長野県飯山市を訪れました。飯山市は長野県でも有数の豪雪地帯で、その雪を逆手に取り、雪まつりや鎌倉まつりを開催して町・地域興しに取り組んでおり、その期間に研修を計画しました。

初日は、雪まつり会場と地元ガイドさんの案内で市内の散策。2日目はスノーシュー体験（または温泉めぐり）とかまくら体験をしてきました。最初の目的地「雪まつり」会場は雪が全くなく残念でしたが、町の散策では、仏壇と浄土真宗のお寺が多い飯山市の特徴を学ぶことができました。また、宿の美味しい食事と2日目のスノーシュー&かまくら体験は計画通り実施でき、幹事としては安堵しました。

皆様のご協力に感謝しています。ありがとうございました。

花輪初代

雪国に来たはずなのに…。雪がない。しかも雨。雨がさらに雪を消す。すでにシャーベット化している。明日のスノーシューはどうなることやら…。

一変して朝から雪降り。空も大地も分からないモノトーンの世界。降りしきる雪の中、スノーシューをつけて出発。ガイドさんが案内してくれるので、オキラク、オキラク！まささらな雪の中をかけまわったり、雪の人型作りのために雪の中へ倒れ込んでみたり。久しぶりの童心にかえって心から楽しんだ。

研修旅行雑感 塩沢久仙

その昔、遠く奈良時代のこと、手負いの熊を追跡中の猟師が見つけたと言われる高温で良質な野沢温泉は、地元山人たちの健康を維持し続けています。また、オーストリアのレルヒが上越の高田に伝えたスキー術はいち早くこの地にもたらされ、地元住民の懸命の努力により温泉とスキー王国「野沢温泉村」が成り立ちました。

一日、目一杯「飯山市」の研修を終えた二日目、近くの信越トレイルで、豪雪地帯のスノーシュー体験に出掛ける仲間達を見送って、「温泉巡り班」二名は、宿のオーナーのスリリングな雪道運転に緊張しながら野沢温泉「麻釜温泉公園・ふるさとの湯」に浸かった後無料温泉外湯めぐりのコースにしたがって、温泉とスキーリゾート地の町並みを散策・・・この日は雪が舞い散り、スキーコンディションが悪いために街には人通りが多く、特にロングステイの外国人のスキー客が目立ちました。

近年国内では斜陽化したスキーもこの地ではニセコ、白馬のスキー場と共に外国人スキー客招聘に成功しているようです。南アルプス市では外国人をひきつける魅力ある物と場所はどこにあるのでしょうか？



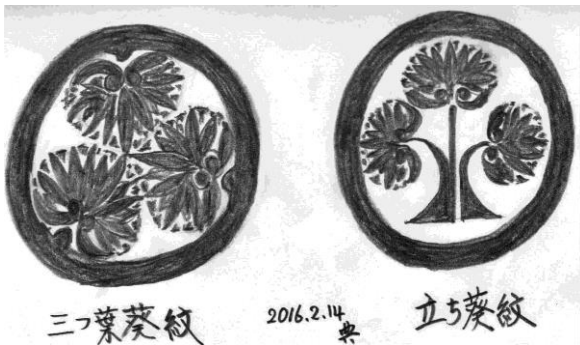
いいやま雪まつりの神輿

「立ち葵」紋 渡邊典美

『雪国の小京都(飯山市)』とは素晴らしい表現だ！当日雪が降っていたなら情諸あふれる寺めぐりになったことでしょうか、降雪なしだったからこそ鑑賞できた家紋がありました。それは、松平、本多家の菩提寺である「忠恩寺(浄土宗)」を訪れ、三つ葉葵を支える「立ち葵」紋の実物を眺め本多家の威風と忠誠心に感嘆したからです。この寺は杉木立に包まれた本堂や切り妻の屋根造りが見事な庫裡とで、さすが格式を今に伝えていました。この中で要所要所に配置されている「立ち葵」の家紋を目の当たりにすると、それは三つ葵の葉を下から三本の幹で支えて展開させる絵柄となっていて、こがねと輝いていたのです。なるほど戦国乱世から將軍家を長きに渡って支えた本多家の存在そのものであると、この紋所を見て自分なりに納得したものでありました。

同じように我等芦安 FC は、南アルプスエコパークの礎や幹となって遺産文化を継承しなければならないと、その気にさせる研修になったと思っております。

※こんな話もある・・・三つ葉葵の紋所は本多家から松平家へ献上されたものとされている。そのいきさつは徳川家康の祖父(松平清康)がある城を攻めた時、本多正忠が味方して勝利した。その戦勝祝いの席で正忠は三枚のミズアオイの葉に酒の肴を盛って出すという粋な演出をし、これを大変喜んだ祖父が本多家の家紋である「三つ葵」を所望し旗紋とした。その後、本多家は徳川家に遠慮して「立ち葵」に変えたと伝えられている。



井口功

昨夜から降り続いた雪でようやく野沢温泉らしい雪景色になってきた。しかしあまり沢山降ると帰りの電車が心配だ。温泉組と別れ、バスはなべくら高原森の家へ着き、そこでガイドと合流、スノーシューを履いていざ雪の中を歩き出した。森の中、林を抜け、夏は畑のあぜ道などを歩き、雪と戯れた。そして森の家まで帰り楽しいスノーハイキングを終えた。寒い雪の中、ちょうど良い時間であった。幹事の杉山さんに感謝です。

「3人目のガイド」 小澤哲也

今回の研修旅行でガイドの良さを再認識しました。

1人目のガイド。町の散策では、古刹の由来等、説明を聞いて“知識”を得る楽しさが、足取りを軽くしてくれました。

2人目のガイド。降雪でのスノーシュー。ストレッチから始まりました。この時点で“安全”に対する配慮を感じました。心置きなく愉快になれました。

3人目のガイド。

旅行後、飯山地方の伝統惣菜「じゃがいものなます」は素朴だが、どうして箸が進むのだろう！と思っていたら、NHKのテレビ番組でそれが放映されました！おかげで味の記憶が昇華し、“満足”を得ました。3人目のガイドは「今日の料理」です。

森本聖治

平成28年2月14日、15日、1泊2日で長野県飯山市に行ってきました。一日目は、朝から雨の中バスで飯山市に。雪祭り会場に着く頃は、雨も小降りになり、会場内を見学して、それから高橋まゆみ人形館、飯山寺町をガイドの案内で見て回り、一日を終えました。

二日目も朝から雪の中をスノーシューでの散策組は出発し、私と塩沢さんで野沢温泉組として、宿の車で野沢温泉、麻釜温泉公園のふるさと湯に送って頂き、とりあえずこの風呂に入ることにしました。内風呂は45度と41度、露天風呂は42度で白く濁って硫黄の臭いも強く感じられました。体も温まったので、外湯めぐりに。雪の中を歩いて、まず湯河原を見て、それから大湯と見て、雪は次第に多く降ってくる中を山の方にあるスキー場の入り口まで行っているうちに迎えの車の時間となり帰って来ました。途中歩いている人は、外国人が多かったです。車で皆がいるかまくらまで送ってもらい、食事をとり帰って来ました。寒い中にも楽しく過ごせて良かったです。

計画してくれた杉山さん、有り難うございました。



ふるさとを熱心に語る飯山市のガイドさん

石川剛

前日まで荒れ模様の予報に心配しながら出かけた。

1日目、雨降り、街角の雪灯籠も解けている、神輿も出ているが祭りとしては盛り上がりには欠ける、それでも印象に残る人形、数多いお寺の見学、ガイドさんの話を聞き楽しい研修になった。

宿に着き、温泉に出かけた。若者が多く混んでいた。宿ではリンゴ食べ放題、食事、お酒が実に美味しかった。

2日目、雪だ。朝食後、支度をしバスで、森の家へ。スノーシューを付け危険個所の注意を受け、ガイドさんに付いてスタート。積雪は例年の三分の一だそうだ。少しだけ吹雪、冬山の醍醐味を味わえた。

大滝要造

飯山の雪まつりは、天候のせいか名物の雪像も形がくずれちょっと残念でした。まち歩きは、お寺めぐり、仏壇通り、スイーツなど盛りだくさん。なかでも高橋まゆみ人形館は、ふるさとの原風景と人形たちの表情がやさしさにあふれ、心なみえました。宿泊したペンションも、コーヒーや地元産リンゴ食べ放題の談話室があり、食事もおいしく快適でした。翌日は大自然の中でのスノーシュー散策。なべくら高原の森の家を拠点に、ブナの森を歩き、広大な雪原を思いっきり走ったり雪遊びをしたり、とても楽しい時間を過ごしました。今度は、あこがれの信越トレイルを歩いてみたい、という夢をふくらませています。



「かまくら村」



「のろし鍋」

齋藤美樹

楽しみにしていたスノーシュー。寒気のため朝から雪が降り、ちょっと残念。でも、なべくら高原のブナ林の中をスノーシューで散策していると、幻想的な雪景色に感動。ウサギの足跡を見たり雪遊びをしたりして子供の頃のように雪まみれになり、かえって楽しい思い出になりました。雪に感謝しまーす！運動した後のかまくらの中での、のろし鍋とても美味しかったです。今年の研修旅行もいろいろ体験できて良かったです。杉山幹事さん、ありがとうございました。

飯山は「ぬくい」まちである

清水毅

これ以上は無いと思われる素朴な表情の「人形館」を後にして、全国にも珍しい仏壇店の並んだ通りを歩いた。漆や箔など繊細な細工に適した空気、適度な湿気に恵まれた風土が仏壇を作る上で大切だと聞いた。納得。

これが、昔ながらの古い民家から張り出した「雁木」造りの街並みだったら、どんなにか風情があっただろうか。冷たい湿り雪の降る中を、雁木通りをマフラーを押さえて足早に歩く女性。絵になるなあ。

寺町の名のとおり、室町時代から続く仏教信仰により、寺が多く存在する。「雪国の小京都」という言い方が適切かどうかはともかく、じっくりと深い歴史を味わわせてくれる。旅の大きな魅力のひとつである。最後にみた文化交流館が周りの風景になじんでいるかは疑問に思う。

「飯山ふるさと案内人」が心をこめて説明しながら引率してくれた。街作り村おこしには、最後は多くの人のぬくもりの心が大切だと感じて街を後にした。



雪原でのスノーシュー体験

白根御池小屋の歴史

北岳登山には欠かせない「白根御池小屋」。清潔で温かい布団。無料で飲めるおいしい天然水。この素敵な小屋にも古くからの歴史があることをご存知でしょうか。白根御池小屋の管理人、高妻潤一郎さんに、現在の小屋になるまでの歴史をお伺いしました！

歴史は平安時代から…

古くは平安時代の古今集に「甲斐が根」(のちの「北岳」)が詠み込まれています。鎌倉時代には「平家物語」に「甲斐の白峰」が登場するなど、古くから山としての認識は高かったのです。

また江戸時代の「甲斐国志」には、大加牟婆池の伝説の記述があり、1795年(江戸中期)には北岳に大日如来が奉納されたとあります。

1814年:「甲斐国志」に北岳、甲斐駒ヶ岳、鳳凰山など山頂の詳しい記述。

1871(明治4)年: 芦安の名取直衛が北岳に甲斐ヶ根神社を設け、登山道を開く

1902(明治35)年8月18日~27日

ウェストンが、芦安 - 杖立峠 - 広河原 - 大樺沢 - 小太郎尾根のルートで北岳へ。

写真は明治35年8月 ウェストンが宿泊した大家と芦安の集落(芦安村合併記念写真集より)



明治から昭和初期にかけて

明治43年、小島烏水「日本南アルプス」第1巻で「バットレス」の呼称。記録として残っているのは大正時代。1925(大正14)年に大樺池小屋(現白根御池小屋)を利用したとの記録があり、西堀栄三郎らが3月に積雪期の初登頂を果たしたのです。

その後、昭和2年、バットレス第5尾根を京大の高橋建治ら4名で登攀。これがバットレスの初登攀となりました。また同じく昭和2年の7月に加藤文太郎氏が赤石-聖-荒川-塩見-白根三山を単独で8日間での縦走記録なども興味深いものです。

翌年の1928(昭和3)年山梨県が大樺池小屋を行政下においた事から起算して、白根御池小屋は今年(2016)で88年目を迎えます。1929(昭和4)年には白根御池に一年間に285人が宿泊したとの記録が残っています。時を同じくして北アルプスでは、昭和5年の常念小屋は1泊60銭、槍平は1泊50銭であったとの記録があります。その3年後の昭和8年に竹沢長衛氏の長衛小屋ではすでに1泊3食で1円80銭というサービスをおこなっていました。山小屋を一つの仕事としてとらえた先駆者といえるのではないのでしょうか。

1931(昭和6)年:

北岳山頂の南で新種の高山植物を採取。後にキタダケソウと命名。



その後、昭和20年頃から白根御池小屋と呼ばれるようになったといわれています。そして1955(昭和30)年には管理人が小屋に常駐するようになりました。

県営から村営の山小屋へ

昭和36年頃の白根御池小屋

(芦安村合併記念写真集より)



昭和37年10月 野呂川林道（後の南アルプス林道）が広河原まで開通。

昭和39年7月 芦安村は山梨県より白根御池小屋を借り受ける。

写真の女性たちは林道を作るためにボッカ作業中、木を立てて休んでいる所です。昔の女性たちは休みながら編み物までしていたとの話も。(昭和30年頃の荷運びの様子) (芦安村合併記念写真集より)



三角屋根の小屋からプレハブ小屋へ



1911(平成3)年、三角屋根の新御池小屋が完成したのですが、平成11年4月に草すべりの底雪崩により崩壊し、7年しか営業が出来ませんでした。芦安村はすぐにプレハブ小屋を設置し、6月には営業を再開。平成14年9月に白根御池小

屋新築検討委員会において、現在の位置に建築決定されました。建替え決定に年数がかかったのは、同じ場所では、また雪崩で崩壊するのではとの思いがあったからで、一時期は二俣に設置も考えられていました。

現在の白根御池小屋へ



平成17年5月から工事が開始されました。特に鉄骨の組み立てがとても大変でした。一番長い梁はヘリコプターで設置をしました。3日ごと、時には毎日のようにヘリを飛ばしました。職人はヘリで入山、仕事を終えて歩いて下山をくりかえし、最も多い時は60人ほどの職人が寝泊まりをして工事を進めました。

また、北岳の岩盤は固く、基礎のコンクリート打設にかなりの時間と労力を要したため、基礎部分の工事だけで1シーズンが経過してしまっただけです。

小屋を営業しながらプレハブの解体もおこなったため、小屋をオープン前に秋口から仮使用を開始し、食事は裏の外廊下部分で調理をして運ぶということをしていました。



(建設中の白根御池小屋)

完成した白根御池小屋は、2006(平成18)年6月から営業開始となり、今年で10年を終えることができました(2015年11月現在)。

白根御池小屋の歴史、いかがでしたか？
次回は、「白根御池小屋の1年」について
ご紹介します！ご期待下さい！

新入会員紹介 小澤哲也さん

初めまして、小澤哲也(おざわてつや)と申します。平成 27 年 4 月 1 日、芦安郵便局に転勤してまいりました。現在、芦安郵便局は南アルプス市役所芦安支所内にあり、お客さまに「ご利用」と「お育て」いただいております。地域のみなさまとの交流の中で、微力ではありますが、個人的にも貢献できることはないかと思っていました。

芦安に転勤が決まった時、真っ先に思い浮かんだのが「山」でした。本格的な登山は 15 年ほど遠ざかっておりました。他の趣味のバイク、最近始めたトランペット、万年筆の沼、等等いろいろ手を出して「山」は“休眠”状態でした。そこへ日本有数の登山口での勤務…山への気持ちがうずきました。

登山歴は 20 歳ぐらいから始めました。ぼちぼち登りながら、日本の 3,000m 峰 21 座完登。季は春山までです。

芦安ファンクラブの一員としてお役に立てるか？
また、少しでも「芦安」の力になれるのか？志と不安でいっぱいです。
どうかみなさまのご指導、よろしくお願い申し上げます。



イベント・インフォメーション！

芦安新緑・やまぶき祭

「おいしい！・たのしい！」がいっぱい詰まった、住民手作りのお祭りです。今年も多くの皆さまにご来場いただけることを願っています。新緑の芦安を存分にお楽しみください。

日時 平成 28 年 5 月 8 日(日) 午前 9:30～
場所 南アルプス市立芦安小学校校庭



南アルプス開山祭

厳粛な蔓払いの儀式、雪を頂く北岳の雄姿。2016 年登山シーズンの幕開けに立ち会ってみませんか？
美味しい手打ちそばが無料でたべられますよ～♪南アルプス市主催の「キタダケソウ観察会」もあります！

日時 平成 28 年 6 月 25 日(土) 午前 10:00～
場所 野呂川広河原インフォメーションセンター前

※会場へはマイカーでは入れません。バスかタクシーをご利用下さい。



「キタダケソウ観察会」 主催：南アルプス市 協力：南アルプスガイドクラブ

開催日:6/25(土)～26(日) 参加費:10,500 円(宿泊費・保険代他) ※登山ガイドが同行します。

申込み・問い合わせ:南アルプスガイドクラブ / 080-6653-5418 / magc3193@gmail.com

平成28年度 登山教室のご案内

南アルプスは、ユネスコエコパークの認定を受け、豊かな自然と生活環境を未来に引き継ぐモデル地域としてスタートしています。

芦安ファンクラブも登山教室を通じ広く発信していきます。一緒に楽しみましょう。

コース一覧 募集人員 各コースとも20名 最小催行人員 5名

回数 種類	開催日 / 集合時間	目的地 / コース説明	登山口	難易度	申込期限
	集合場所 / 参加費		宿泊	特殊な装備	
1日コース	5月22日(日) 集合午前7時00分 4,000円	奈良時代から峠は歴史の生き証人 芦安鉱山の全容を探る	御勅使川上流 日帰り		5月13日 (金)
第40回	どちらも芦安山岳館集合	ドノコヤ峠～芦安鉱山跡地		初級者・中級者	
2日コース	5月21日(土)5月22日(日) 集合午後1時30分 15,000円	奈良時代からの峠は歴史の生き証人 前日午後、登山研修座学を行います	御勅使川上流 山岳館周辺 宿泊		7月5日 (火)
2日コース	7月13日(水)7月14日(木) 集合午前5時00分 19,000円	百花繚乱 北岳のお花畑にご案内します 北岳 大樺沢右俣コース	北岳肩の小屋 1泊	中級者向き 1,700mの高度差 体力必要	
第41回	どちらも山岳館	北岳 お花畑めぐり	どちらも広河原	軽アイゼン	
3日コース	7月13日(水)～7月15日 (金) 集合 午前9時30分 31,000円	百花繚乱 北岳のお花畑にご案内します 北岳 大樺沢右俣コース→草スベリ	白根御池小屋 2泊	初、中級者向き	
栗沢山 コース	10月1日(土)10月2日(日) 集合午後1時00分 19,000円	栗沢山 甲斐駒ヶ岳が迫ります！ 秀峰甲斐駒ヶ岳の絶景ビューポイント	北沢長衛小屋 1泊	初中級者向き	9月23日 (金)
第42回		入山時長衛小屋周辺で座学を行います	どちらも北沢峠		
甲斐駒ヶ 岳 コース	10月1日(土)10月2日(日) 集合午後1時00分 19,000円	開山200年 秋の甲斐駒ヶ岳 紅葉、黄葉を訪ねて！ 花崗岩と紅葉は絶景です！	北沢長衛小屋 1泊	中級者向き	

■参加費は、当日受付でお支払いください。参加費には宿泊費・2日目(3日目)昼食代・保険料・乗合タクシー代金・登山後の温泉入浴料を含んでいます。

■初日の昼食は、各自でご用意ください。

NPO法人芦安ファンクラブは、南アルプス市芦安山岳館との共催で登山教室を開催しています。登山教室では一人でもグループでも参加を受け付けています。お申込みをお待ちしています。実践を通して、安全で楽しい登山をするための技術や知識を学べます。

■申し込み・問い合わせ先

◆芦安山岳館 〒400-0241 山梨県南アルプス市芦安芦倉1570番地

◆Tel 055(288)2125 Fax 055(288)2162

◆http://ashiyasu.com ◆メール afc3193@nus.ne.jp

■申込方法 所定の申込用紙にご記入の上、FAX又はメールでお申込ください。トラブル回避のため電話での申込は受け付けていません。

■登山教室の前後日に芦安温泉施設(一部を除く)の宿泊を希望する場合、申し込み時にご予約された方に限り、宿泊料1割引きサービスを致します。申し込み時に必ずご予約下さい。

■主催 NPO法人芦安ファンクラブ / 南アルプス市芦安山岳館

平成28年度 南アルプス・芦安登山教室申込書

※申し込みは、各人ごとをお願いします。

※希望するコースに○をつけてください。

※各コースとも定員は20名先着順です。

回 数	希望コース	開 催 日	コ ー ス
第40回	1日コース	5/22(日)	ドノコヤ峠～芦安鉱山跡地
	2日コース	5/21(土)～5/22(日)	
第41回	2日コース	7/13(水)～7/14(木)	北岳 ～百花繚乱 お花畑にご案内します～
	3日コース	7/13(水)～7/15(金)	
第42回	Aコース	10/1(土)～10/2(日)	Aコース 栗沢山
	Bコース		Bコース 甲斐駒ヶ岳
備考 ※グループでお申込の場合は、この欄に、ご同行者様の氏名をご記入ください。			

※該当するところに、記入または○をつけてください

ふりがな			生年 月日	昭和	年	月	日
氏名				(年齢 歳)			
住所	〒		性別	男 ・ 女			
電話番号 FAX番号	自宅	【FAX】					
	携帯						
	緊急時連絡先【連絡者氏名】		【電話番号】				
メールアドレス	パソコン						
	携帯						
体力度(自己判断)	弱い	やや弱い	普通	やや強い	強い		
健康状態							
山行履歴	◆登山暦 年						
	◆最近の主な山行履歴をご記入ください。(例) 富士山 山頂まで 平成24年8月						
その他	◆芦安温泉施設での前泊を希望しますか。 希望する ・ 希望しない 【第 回】 ◆その他質問等ありましたらご記入ください。						

【注】申込みに際して、次の事項を遵守してください。

1. ガイドの指示に従い、ガイドの示す注意事項を守ってください。
2. 安全のため、コースの変更など予定を変更することがあります。予定変更に従ってください。
3. 健康管理は、自ら責任を持ち、体調を整えて参加してください。